

[Salesforce × 社内DX推進]

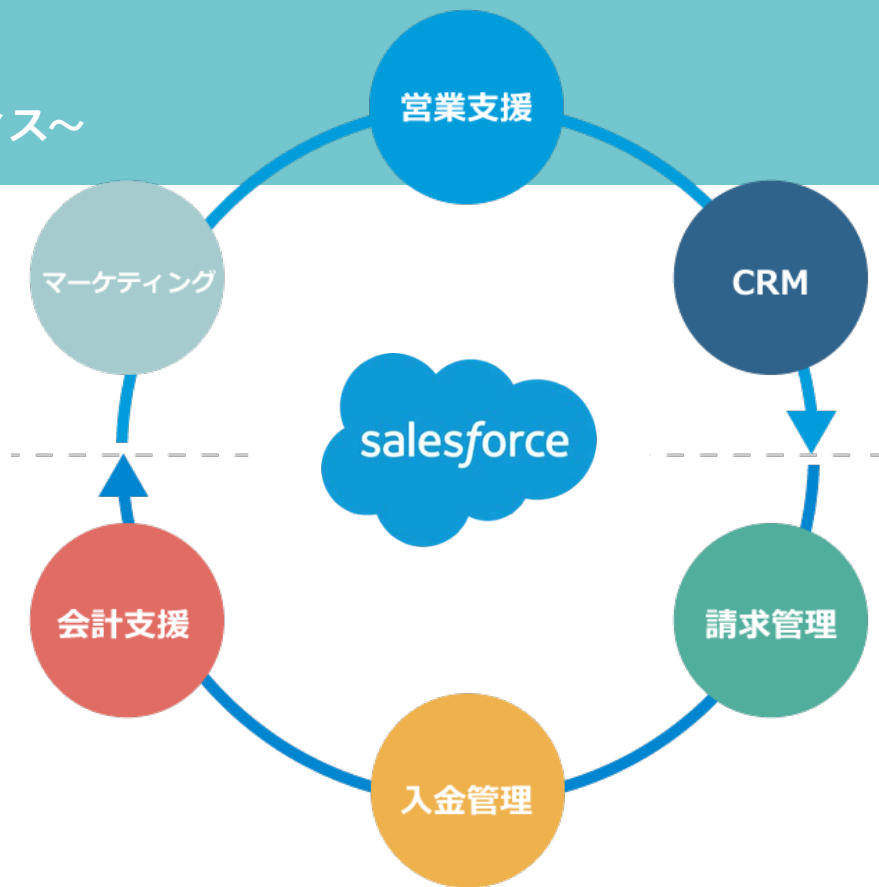
成功企業が実践する電子請求による生産性向上事例
～請求管理口ホSalesforce AppExchange/API連携 の活用～

請求管理ロボ × Salesforce

～「生産性」の高い組織を作る2つのベストプラクティス～

契約後から会計までの取引プロセスも、
Salesforceで管理しよう。

顧客に関する情報は全てSalesforceに集約しましょう。
全世界20万社以上の実績があるSalesforceとだからこそ、
より効果的です。
請求管理ロボでSalesforceから会計まで情報の流れを繋ぎ、
営業担当と経理担当の連携をスマートにしましょう。



目次

Introduction		取材後記	08
求められるSalesforceへの理解	04	多様化が進むSalesforce活用と経理業務のオートメーション化	
事例 01			
Salesforceへ契約後のお金にまつわる情報を集約 ～事例：株式会社ニュースピックス～	05	ソリューション紹介	09
事例 02		請求管理ロボ for Salesforce	
既存の請求業務のワークフローを変えずに課題を解決 ～事例：株式会社リバナス～	06		
事例 03		終わりに	10
「商談成立」と紐づけて請求業務の自動化を実現 ～事例：ベルフェイス株式会社～	07	ROBOT PAYMENTについて お問い合わせ先	

せっかく導入したSalesforce、単なる営業管理ツールになっていませんか？

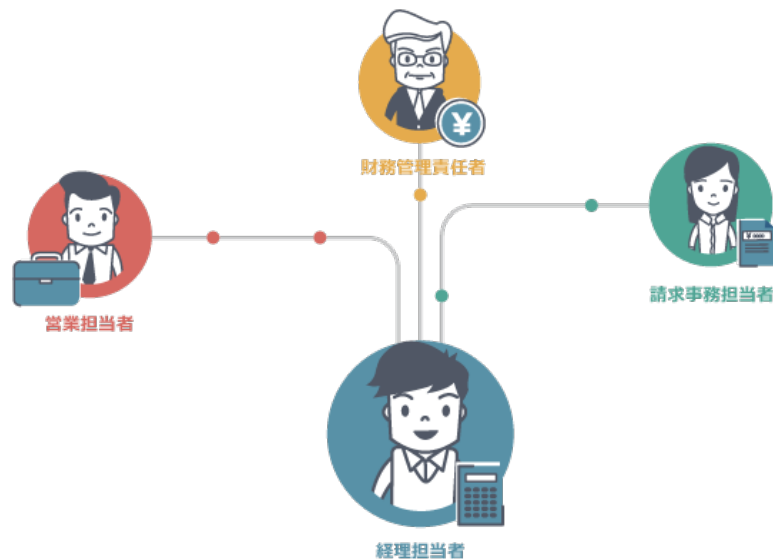
「生産性」で差がつく時代、Salesforceを中心とした連携システム構築・組織編成がカギ。

「クラウド」という概念が死語と捉えられる程当たり前の存在となった昨今ではありますが、Salesforceをはじめとしたクラウドサービスの導入を推進したからと言って、どの企業も同じだけ成果を得られるわけではありません。企業のIT投資の成否を分けるのは、社内情報の集積地点である経理担当者の働きにかかっています。

成長著しいwebサービス業界を見渡すと、いかに日々のタスクをシンプルかつ省力化するかということに常に頭を悩ませ、積極的に情報収集を続ける経理担当者が増えていることがわかります。そんな彼らが共通して着目するポイントとして、Salesforceを中心に異なる部門間がお互い無理なく連携しバックオフィス業務を効率的に処理する仕組み作りが挙げられます。

特に、新規事業の立ち上げやIPOを一つの通過点としている企業にとっては、リソースの配分や内部統制といった内部の要因で躓くことの無いよう、業務オペレーションに関する取り組みには常に先手を打っていく必要があります。

本冊子では、Salesforceを活用して生産性の高い組織を構築するイメージをより具体的に描いていただくため、実際の事例取材をもとに、成長企業のIT経理に共通するSalesforceを中心とした2つの取り組みをご紹介します。



1.Salesforceを基幹システムとしてお金にまつわる情報を集約

請求・入金関連情報が Salesforce上に集約。お金周 りの人とプロセスを繋ぐ

株式会社ニュースピックス

経営企画本部 部長 蒲原 慎志 様



< 実現したかった事 >

- ・基幹システムとして利用しており、Salesforce上で完結する請求/入金管理の運用を希望
- ・ビジネスモデルに合わせた、多様な請求パターン（一括/分割、前/後払い、毎月払い）に対応したい
- ・広告配信における計上単位と請求単位のスレに柔軟な対応が必要



< 導入効果 >

- ・Salesforce上で請求/入金管理が完結
- ・商談情報と請求情報の一元管理を実現し、様々な請求パターンやイレギュラーな状況に対応できる柔軟な運用を構築
- ・今後の事業展開にも備えたシステムの拡張性も担保

2.Salesforce連携し、既存の請求業務のワークフローを変えずに課題を解決

たった1カ月半で 請求書の発行から送付までの 業務を自動化。

株式会社リバネス
取締役 CIO 吉田 様



< 実現したかった事 >

- ・ Salesforceを中心に管理を行っているため、連携できる経理システムの導入や、それに紐づく口座管理、会計管理のクラウド化を実現したかった
- ・ 多忙なフロント担当者が請求書の出力から郵送、未入金回収連絡まで行っているため、省力化したかった
- ・ 経営的な視点でみて、請求書の発送漏れ、未収金回収の遅れが問題視されていた



< 導入効果 >

- ・ 請求管理ロボは、SalesforceのAppExchange版もあり、銀行口座との連携も可能でクラウド化が1カ月半でできた
- ・ Salesforceと連携した上で、これまでの請求フローをほぼ変えずに請求書の送付までを自動化できた
- ・ 未収金管理がオンライン上で可視化でき、消込も自動化されたことで回収の遅れ防止に繋がった

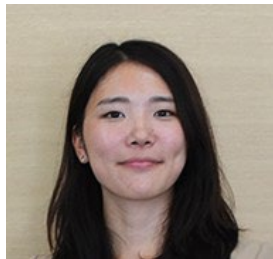
3.Salesforce連携で「商談成立」と紐づけて請求業務の自動化を実現

運用中のSalesforceの カスタマイズに乗せて、 そのまま導入。

ベルフェイス株式会社

事業企画室 ビジネスイネーブルメントチーム

マネージャー 野田 ちあき 様



bellFace

< 実現したかった事 >

- ・請求システムを導入していたが、Salesforceのデータベースと別々であるため、契約管理と紐付けができず管理が煩雑になっていた
- ・システムの仕様上、宛先管理が請求書と見積書で共通であったため、異なる担当による宛先の上書きが発生し、その確認のため送付まで丸2日掛かっていた



< 導入効果 >

- ・契約管理と紐づけができ、Salesforceの契約と請求が連動した上で、プロセスビルダー機能の活用により、大幅な業務効率化がはかれた
- ・プロファイルで細かく編集権限が割り当てることが可能なため、担当者以外の上書きできなくなり、作業も2日から2時間に短縮できた

多様化が進むSalesforce活用と経理業務のオートメーション化

1. 生産性の改善と業務システム

圧倒的な低コストを背景としたクラウドサービスの登場と普及により、基幹システムをスクラッチ開発によって個別カスタマイズすることが当たり前だった業務管理の領域にも、遂に均質化の波がもたらされると考えられていました。

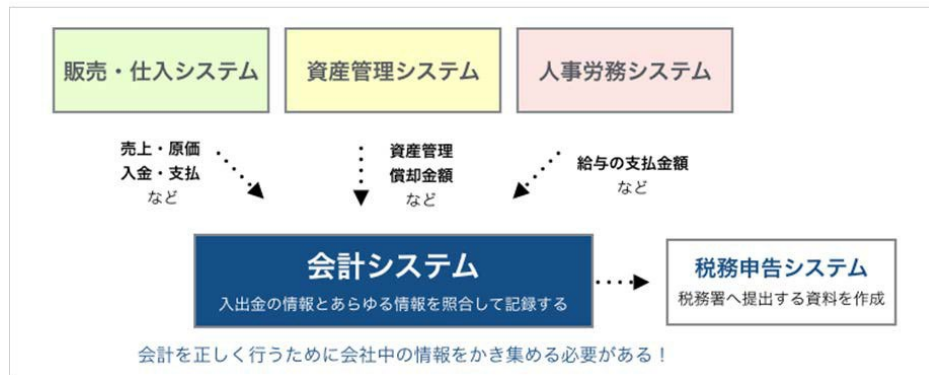
しかし、Salesforceのような業界のリーダーを中心としたエコシステムがその規模を拡大するにつれ、連携を通じ、エコシステムに組み込まれることを前提としたクラウドサービスが開発されるようになりました。さらにSalesforceに特化したシステムインテグレーターやEAIツールの発展が、企業の業務管理システムの活用による生産性改善の形をより多岐に渡るものとしています。

2. 経理担当者は今後情報システムの領域にスライドしていく

RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)をはじめとした業務自動化システムの進化によって今後最も変革に直面することになると言えるのは経理担当者です。これまで、経理担当者は財務諸表を作成するにあたり、販売管理システムや資産管理システム、人事労務システムなど多様な業務管理システムを導入し、使いこなしてきました。しかし、会計ソフトをはじめ、様々なツールを併用。かえって業務が煩雑になり、作業工数をとられては本末転倒になるケースは今も多くあります。

業務を誰よりも知っているのは現場のスタッフであり、システムを扱うのも現場のスタッフです。新しいシステムの導入時に既存のオペレーションに沿ったものであるかどうか、互換性があるかどうかでその後の成果は大きく変わります。本当の意味で業務効率化を実現するためには、システムの特性をしっかり把握しておくことが今のIT時代を生きぬく経理に求められる素養であると言えるでしょう。

進む経理の情報システム化



Salesforceを「ハブ」として、業務別に分断された情報を一元管理できるクラウドサービス。

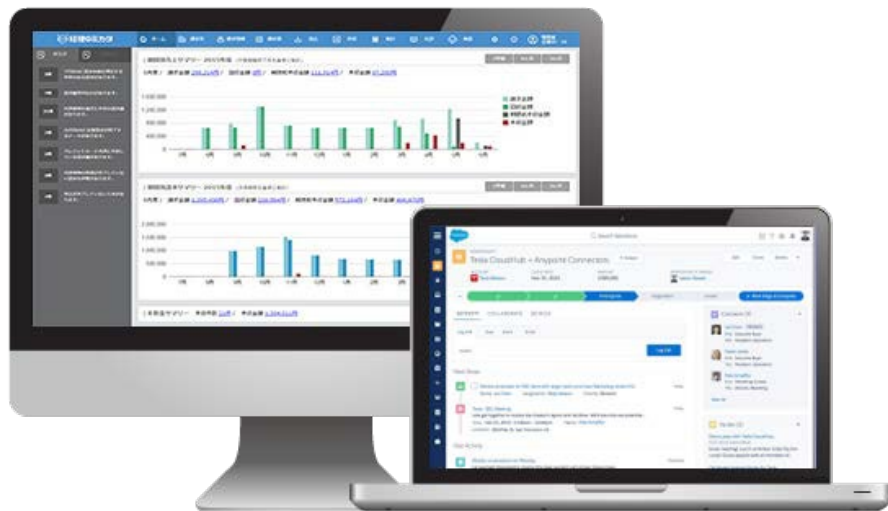
【請求管理ロボ for Salesforce の3つの特徴】

- ① Salesforce®一体型だから実現できる！自社業務フローに合わせた作業の平準化
Salesforce®の自動化ツール活用により、適切なタイミングで必要なデータを作成することが出来ます。
- ② 請求書発行スケジュール登録と決済ソリューションにより請求・回収業務の負荷削減
顧客数が多いビジネスでは、締め処理と催促業務の負荷削減に貢献します。
- ③ 請求・回収状況が顧客に紐づき確認できるため、取引実績をアップセル活動に活用可能
顧客に紐づいた請求・回収状況のデータを基にプラスαの活動に活かすことが出来ます。



規模の大小に関わらず、500社以上の導入実績を誇ります





ROBOT PAYMENTについて



株式会社ROBOT PAYMENTは、創業から20年以上に渡り、お客様に決済代行・決済システムのサービスを提供し続けている企業です。クレジットカード決済代行の他、口座振替やコンビニ決済、他にも多彩な手段で決済システム・決済代行を行っております。また、オンライン決済の技術を活かした、継続請求管理ロボット「請求管理ロボ」を提供し、企業の生産性向上、収益向上、キャッシュフロー改善を通じてお客様の成功を実現します。

お問い合わせ先

会社名: 株式会社ROBOT PAYMENT

所在地: 150-0001東京都渋谷区神宮前6-19-20 第15荒井ビル4F

連絡先: 03-5469-5784

公式サイト

<https://www.robotpayment.co.jp/service/mikata/>